

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 サングループホーム横内)

事業所番号	0290100056		
法人名	(有)サン・シヨウ		
事業所名	サングループホーム横内		
所在地	青森県青森市横内字若草13-2		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①事業所専任の薬剤師による服薬管理・相談 ②広大な畑で野菜を育て収穫を喜ぶ場所がある ③天然温泉を療養泉として活用 ④天然木をふんだんに使用し居心地の良い空間 ⑤AED設置 ⑥多方面の協力体制の充実 ⑦地域包括支援センターとの独自の協力体制 ⑧他グループホーム、町会、消防団等の協力体制

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosjp/infomationPublic.do?JCD=0290100056&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を取り巻く生活環境は申し分なく、開設して短期間で地域に受け入れられ存在を確かなものになっている。特に昨年より『自防捜』という町内見回り隊の発足により、無断外出や災害時にはさらなる協力が得られる体制にある。日頃から婦人会の来訪により事業所内部を把握し、災害時に各自の担当者を決めていたり、地域住民との交流は盛んである。管理者は職員からの意見を否定することなく全てを受け入れ、どんな些細なことでもミーティング等で検討・改善してサービスに反映し、利用者・職員が一丸となり日々実践し、穏やかな、且つ覇気のある生活を営んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>全職員は理念を共有し、毎日の生活の中に反映させていけるよう、お互いに声かけあいながら協力している。</p>	<p>『明るく、仲良く、楽しく 地域との密接なつながりを大事にしながら、共に助け仲良く、楽しい笑顔あふれ、利用者、家族が明るく和を育てる日常生活を送る』という理念を掲げ、日々の生活の中で、職員が互いに声をかけ合い、日々のサービス提供場面に反映させている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の大学とも協力をして、地域の中高校生対象にした介護体験授業などへのお手伝いを行っている。</p>	<p>近隣地域にグループホームが数カ所あることから住民の理解・協力体制は得られている。地域住民対象の歌謡ショー時には『お薬相談』ブース、『口腔ケア』ブースを設け専門的な知識提供をしている。近隣大学と協力体制関係にあり、地域の中・高校生対象の介護体験授業も開催している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域住民対象に歌謡ショーにおいて、お薬相談ブースを設け、地域住民のお手伝いをしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>避難訓練において地域消防団、婦人部の大勢の参加にて皆さんから意見をいただき修正し、次回の会議に役立っている。</p>	<p>町会長・民生委員・婦人会・地域包括支援センター・家族等が参加し、運営の方針、現状報告、自己評価・外部評価の結果についても説明し、意見を求めている。報告や情報交換の機会を持つことにより、町会長の呼び掛けにより『自防捜』という町内見回り隊が結成される取組みに繋がっている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価結果等について報告したりなどし、また職員も必要に応じて市役所に出向き相談連携など図っている。</p>	<p>自己評価・外部評価の結果を毎回提出して報告している。行政へ定期的に出向き、課題解決への相談・協力関係を築いている。地域包括センターのマップ作りにも参加し、グループホームの空き状況・連絡先の把握への協力体制にある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について職員間の研修を通じ、演習したり予防策について話し合いの機会を設けている。</p>	<p>日中、玄関・居室は施錠をしていないが、夜間は危険防止のため施錠をしている。職員は常に見守り、不意の外出時には付き添い、無断外出のあった場合も町内会から見回りの協力が得られる体制がある。やむを得ず拘束を行う場合のマニュアルが作成され、その理由・方法・期間・経過観察等の記録様式や家族等に説明を行う同意書の様式も整備されている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について定期的に職員の勉強会などを行い注意、防止に心がけている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部、外部研修に参加し、理解を深める取り組みを行う。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>説明チェックリストを作成し、相互でチェックし理解を深めるように説明する。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを作りやすい環境を整え、事業所内に苦情受付窓口、外部受付窓口を提示し、家族が意見を申し出しやすい環境作りをする。</p>	<p>利用者とは日々の関わりの中で言動や思いを観察し、家族間では面会時のコミュニケーションの中から意見や要望を把握し、ミーティング等で検討・対応している。入所時の重要事項説明時にホーム苦情相談窓口と外部苦情申し立て機関について説明し、玄関にも掲示している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見提案を求め、より良い環境作り人間関係作りをする。	代表者は利用者全員を把握している。管理者は職員の意見や提案の全てを否定することなく受け入れ、ミーティング時等に話し合う機会を設けている。時には代表者から指導や助言などを含む意見交換の機会を持つことにより、日々のサービスに反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に対話の場を設け、全職員より意見提案を求め、より良い環境作り人間関係作りをする。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には、全職員参加できる体制作りをしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行事参加、見学、研修などを通じて、意見交換しつつ、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度も事前訪問し、本人の意向の聞き取りを行い、安心して暮らせるよう支援をする。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問し、家族とよく話し合い情報提供していただき、それに伴い1番望んでいる事の提示をできるような関係作りをする。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、支援サービスが受けられるよう、関係機関との連携を図る。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方を人生の先輩、また、家族の一員とし相互の信頼関係を結ぶよう努力し、支援する。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の情報提供を通じ、意思疎通を図り職員の意思統一をすすめ、お互いに何でも言い合える関係作りをする。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を元に、馴染みの人や場所等に、積極的に足を運んでもらうように声かけ、来苑していただくよう環境作りをする。	入居時に本人・家族関係者からの聞き取りにより把握している。電話の取次ぎや手紙のやり取り、また、友人の来訪にも対応している。本人が希望する美容院・かかりつけ医への通院等へも家族の同伴により外出している。定期的に化粧品メーカーによる化粧ボランティアも開催され喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格を職員が把握し、コミュニケーションを図りやすい雰囲気作りを働きかける。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者、家族とは、普段からコミュニケーションを図り、サービス終了後も電話連絡、訪問等して相談に応じる。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との対話を密にし、思いや希望等の把握できる様に親密に対応する。	入所時の情報収集を基に本人の希望や意向の把握に努めている。必要に応じて家族やかかりつけ医療関係者からも情報収集をしている。意思疎通の困難な場合は日々の関わりの中で表情・言動・しぐさ等から真意を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係機関からの情報を元に、本人と対話しながら確認し、全職員へのプライバシー保護を周知徹底を図る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の行動パターン把握、心身状況の観察しながら、変化に応じて適切な助言、支援を進めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をより理解するため、コミュニケーション等で知り得た小さな情報、変化をケアプランに反映させて、より良い快適な生活を送れるように作成する	利用者の心身の状況・希望・その置かれている状況を把握し、ケア会議で職員の意見やアイデアも反映させた介護計画を作成している。実施期間は6ヵ月間とし、必要に応じて随時見直し、利用者・家族の意向を取り入れたり、必要があれば医療機関の意見も参考にし、その時の利用者の状況に合った支援となるように検討し、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録紙は、身体・精神・病気などにより、個々によって違う様式になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域、町内会員として様々な情報交換、交流を通し、資源を活用し楽しめるように対応している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を元に、会社の特性を活かした医療機関、関係医との連携を大切に、急変時にも家族への素早い対応が出来る。</p>	<p>入所時にこれまでの受診状況を把握しており、希望する医療機関を継続受診できるように支援している。基本的に家族が同行しているため、報告書・指示書・要望等は直接に家族から報告されることが多いが、結果はホーム便りに掲載したり、緊急時には随時電話連絡をしている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日のバイタルチェックを元に、状態観察を行い、異常の早期発見に努め、医療関係者と相談出来る体制作りをしている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院者、その家族、関係者と定期的また、状況により随時話し合いにより早期退院に向けての連携を図り、関係者との情報交換、相談を密にする。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期に対応していない</p>	<p>基本的に重度化・終末期には対応していないが、管理者・職員間では日々の会議において、協力医療機関との連携体制について話し合いが行われ、意思統一が図られている。</p>	<p>日常的な健康管理がなされていて、急変時の対応について利用者や家族等、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っているが、医療機関との連携体制に関して文書化することに期待したい。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時対応マニュアルを作成し対応してる。グループホーム内にもAEDを設置している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に非常食、水分を備蓄し町内において、自防捜の協力隊員となり、町民一帯となる協力体制が出来ている。	日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。町内会長・自防捜協力隊・婦人会・消防団など町民一体の協力的体制で訓練に参加している。数分の場所にある『セコム』とも提携。消火器・火災受信機は業者に依頼して定期的に点検している。災害発生に備えて食料や防寒対策用品も用意している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に対話を持ちながら、個別の人格尊重が行えるようお互いに対応している。	利用者の言動を否定したり拒否したりすることがなく、年長者として敬意を払う対応を心がけるように努めたり、名前は『さん』付けで呼ぶなど本人の納得する呼び掛けにしている。職員は守秘義務や個人情報の保護についても理解しており、個人情報の書類関係は事務室のキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞きながら、発言、意思表示できる環境作りを心がける。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人らしく自由に過ごせる時間など考慮し、快適な生活が送れるよう支援する。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人馴染みの美容院があり、自発的に出かけられる。また職員や家族と一緒に衣類などを買い物に出かける支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や家族から好みを把握し、献立に取り入れる。利用者の状況にあわせ、食事の準備や片付けを一緒に行い、また利用者と楽しみながら食事をいただく。	嗜好調査を行い個々の状況を把握している。所属の管理栄養士から栄養面でのアドバイスを取り入れて献立を作成し、健康管理に努めている。食事時には職員も同席して食べこぼしなどへのさりげないサポートをしたり、一緒に準備や後片づけをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に水分、食事量を記録し、全職員が把握できるようになっている。それにもとづき声がけ等をして、栄養、水分量のコントロールが出来る。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけ見守りにてうがい、ハミガキ、マウスウォッシュを施行する。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時随時の排泄支援、誘導声がけ、見守りの徹底。排泄時の清潔保持の支援、また状況に応じて病院への受診にも対応。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつ→尿取りパット→トイレへの移行へと自立が図られるようにサポートしている。特にトイレに関しては場所確認のための標識(トイレマーク)を付けて混乱しないように配慮している。誘導時の声掛けは羞恥心に配慮し周囲に気付かれない様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士に定期的に献立チェックをしてもらい、利用者の運動、水分、食事量、排便リズムをチェックし、スムーズな排便を促す適切な支援をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員は利用者の入浴習慣を把握しており、意向に合わせた入浴支援している。またホームは天然温泉でいつでも入浴可能である。	週2回の入浴日を設けているが、24時間入浴可能な温泉につき、希望者にはいつでも入浴に応じる体制にある。医師の指示や体調に合わせて足浴・陰部浴・シャワー浴などへ移行している。入浴時は必ず職員が付き添い、安全面・羞恥心へも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力を考慮し、適度な運動後に休息を取るよう支援し、不眠時などには対話、一緒に行動し入眠を促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導管理が徹底的になされている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や力量を把握しボウリング、ルームランナー、マッサージ、習字などそれぞれの楽しみ毎に支援しているほか、促す働きがけをしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物など日常的外出の機会を設けているほか、観光、町会行事への参加などを行っている。外出の際は、移動距離や身体状況に配慮し、その日にあった支援提供。	個々の外出は常に家族の協力が得られている。日常的には中庭を散歩しながら近くのコンビニへ出かけたり、近隣のショッピングセンターでの買い物や希望者があれば外食している。定期的に長距離のドライブも取り入れ、気分転換・リフレッシュをしている。いずれも利用者の身体状況に合わせて中止したり、移動方法・移動距離を考慮して支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している	週1の割合で移動パン屋が来苑し、好みのパンを本人に購入していただく様子に見守り声がけをする。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と週1～2回の割合で、手紙交換させていただいている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者ご自身の作品を季節ごとに作成して居室に飾り、湿度、温度を確認して居心地のいい温度調整に心がけている。	広く見通しのきくワンフロアを目的別に三分割して食卓スペース、大型テレビ・ソファを設置してのくつろぎのスペース、花壇を眺める大きな窓側にはマッサージチェア・ルームラン・エアロバイク等を設置して健康管理に努めている。壁には利用者と一緒に製作した季節感のある作品が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアの中にも、1人で過ごせる空間を作ったり、フローアの中央にテーブル、ソファなど配置しゆっくり過ごせるように工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身受用のベット・ソファ、家具などをお持ちいただき生活をさせていただいている。	使い慣れ親しんだ筆筒・鏡台・ソファ・テレビ・ラジオなどを持ち込んでいただいております、居心地よく穏やかに暮らせる室内作りをしています。温・湿度計、エアコン、簡易物干し器具も設置して健康管理面にも配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に入居者さんがわかる標識やテープ、ぬいぐるみなどを配置している。			